

研究課題

・「話すこと(やりとり)の能力を向上させるための指導方法」

現状の課題

- ・外国人と話す機会はほとんど無く、英会話力を向上させるための機会に乏しい。
- ・授業の中で英語を話す機会はプレゼンテーションやディベートにほぼ限られ、会話をキャッチボールする機会に乏しい。

課題に対する具体の取組の内容

- ・ALTと話す機会をできるだけ設け、その発音に慣れてもらうようにした。
- ・OSTを利用して、オーセンティックな英語に触れインストラクターとのやり取りを楽しめるよう努める。
- ・OSTのインストラクターを通じて異なる外国の文化を受容し、お互いの文化を楽しむ素地を作る。
- ・レッスンの前にプリントで事前学習をすることにより目当ての学習をスムーズに行えるよう工夫した。
- ・事前学習プリントでその国の文化的な背景も説明し、内容を理解しやすいよう工夫した。
- ・レッスンにおいて、表情などの非言語コミュニケーションにも気を配るよう指導し、スムーズなやりとりを心がけた。

成果①

事前のアンケートで、英語に触れる機会の有無についての質問では、事前は肯定的回答が18%であったが、事後では40%まで上昇した。外国の文化に対する受容に関しては、事前では88%がすでに興味を示していたが、事後では90%に上がり、外国の文化に対する興味関心の高さを示した。

成果②

当初は外国の方と話すことに抵抗を感じていたが、徐々に慣れ、笑顔でインストラクターと会話し、次回のOSTを待ち望むようになった。アンケートの記述では、外国の方と話すことで耳が慣れた。「ネイティブの英語が聞き取れてうれしかった」、「これからのグローバル社会に向けて英語をしっかりと学んでいきたい」等の前向きな回答が多く見られた。

今後の課題・方向性

今後もこのような機会があれば積極的に利用し、英語力を向上させて行きたい。今年度は通信環境が整い、iPadの貸与もあり、教室でスムーズにレッスンを行うことができて良かった。来年度は事前指導ーレッスンー事後指導の流れをもっときめ細やかに行い、プリントの内容を元に異文化理解、プレゼンテーション、ディベート等につなげて行きたい。

仙台東高等学校における国際交流の取組について

- 本校は国際部という部があり、創立当初より国際理解教育に力を入れている学校です。本校での活動をいくつか紹介したいと思います。
- 本校の新入生は中学卒業から、高校入学までに、JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテストに応募する作品を宿題として課されていて、毎年240近くの作品が集まります。今年もその中から2本応募し、佳作を受賞しました。
- 本校では11月初旬にグローバルウィークを行い、JICA(日本国際協力事業団)、SenTIA(仙台観光国際協会)、MIA(宮城県国際化協会)等から紹介いただいて、異文化理解講座を開講しました。今年は中国、アイルランド、カザフスタン、パキスタン、ラオスからの講師にお話をいただきました。
- グローバルウィーク期間中には、ハラルカレーの出張販売を依頼し、「美味しい」と、生徒達から好評を博しました。
- 本校では留学生の受け入れも積極的に行い、今年度は高校生訪問団の受け入れを3回行いました。1回目は台湾の嘉義県立永慶高級中学から、2回目は米国ワシントンDCのColumbia Heights Educational Campusから、3回目はワシントン州Curtis senior Highschool, ルイジアナ州Clements Senior Highschool, テキサス州Chaimette Senior Highschool から来ていただきました。震災遺構仙台市荒浜小学校を訪問、HR参加、部活動参加などを行い、国際交流委員がホストとして活躍しました。